

2006年4月1日発行

発行:学校法人国際医療福祉大学 ☎0287-24-3000 ホームページアドレス:<http://www.iuhw.ac.jp>

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **65**
April 2006
カラー・増大号



2005年度国際医療福祉大学
卒業式・修了式

学長式辞 学長 谷修一



IUHW Note

2005年度は下記の広報委員が担当いたしました。次年度は新メンバーに変わります。

広報委員長 伊藤元信(常務理事)

広報委員 阿部智恵子(看護学科) 堤かおり(同) 藤井菜穂子(理学療法学科) 菅原洋子(作業療法学科) 畦上恭彦(言語聴覚学科) 藤田純子(視機能療法学科) 菊地義信(放射線・情報科学科) 宮地幸久(同) 磯伸彦(医療経営管理学科) 永野なおみ(医療福祉学科) 若倉健(医療福祉学科) 角南明彦(薬学科) 千葉礼子(語学教育センター) 田中繁(大学院) 柴田滋(大川キャンパス・作業療法学科) 高橋章子(本校総務課) 川野研(本校入試課) 原田ちはる(福岡・広報担当) 村田るり(東京事務所出版広報室)

表紙の写真：看護学科の松本晴美さん(後列左)、田中訓子さん(前列左)、小野田恵理さん(後列右)、萩本理恵子さん(前列右)。仲の良い友達とともに卒業の日を迎え、「横を毅然と歩いてくれるような友達」と松本さんは言う。

IUHW International University of Health and Welfare

vol.65 April 2006

C O N T E N T S



3 2005年度 国際医療福祉大学 卒業式・修了式



- 4** 学長式辞 学長 谷修一
卒業生・修了生概要
- 5** 博士学位論文発表会を終えて
医療福祉学研究科博士課程保健医療学専攻 根岸徹
大学院学位記授与式を終えて
医療福祉学研究科博士課程保健医療学専攻 菅野倫子
- 6** 卒業メッセージ
言語聴覚学科・川島広明/視機能療法学科・深瀬明子/言語聴覚学科・田中敏恵/看護学科・松本晴美/放射線・情報科学科・前原正義/理学療法学科・常冬梅/作業療法学科・呉葵
- 7** キャフェテリア万歳!! (退官にあたって)
大学院教授・初代看護学科学科長 荒井蝶子

8 座談会「胚培養の将来」

～大学院・生殖補助医療胚培養分野開設から一年～
開原成允・大学院院長/井上正人教授(山王病院院長)/
柳田薫教授(国際医療福祉病院リプロダクションセンター長)/
小島加代子教授(高木病院産婦人科部長)

- 11** トピックス
高木理事長が東京大学で講演/日本病院管理学会第242回例会、本学で開催/中国に対するJICA協力/2006年度入試日程終了/大川キャンパスにグラウンド/大学院に新キャンパス開設/言語聴覚学科、卒業研究発表会/理学療法学科、国家試験激励炊き出し/那須野ヶ原協働フォーラム開催/ニッセイ同和・岡崎会長と奨学生の懇親会を開催/乃木坂スクールで介護・診療報酬特別講義/第一回看護研究会開催/『国際医療福祉大学十年史』刊行
- 14** 新規着任教員紹介 2005年度最終回
- 15** 告知板
紀要第10巻3号発行のお知らせ/2006年度乃木坂スクール開講/2006年度ドキュメンタリー映画上映館のご案内
- 16** 大川キャンパスレポート 第4回
- 17** 施設インフォメーション
附属三田病院/附属熱海病院/[臨床医学研究センター]
国際医療福祉病院・山王病院・柳川リハビリテーション病院
- 19** こんな時どうする? お子さんの急病対応ガイドブック
- 20** 医療福祉チャンネル774/国際医療福祉大学・高邦会グループ

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕 広報委員会 栃木県大田原市北金丸2600-1 電話 0287-24-3000
〔大川キャンパス〕 福岡県大川市榎津137-1 電話 0944-89-2000
〔小田原キャンパス〕 神奈川県小田原市城山1-2-25 電話 0465-21-6500
〔東京事務所〕 出版広報室 東京都港区南青山1-24-1 電話 03-5775-2505

デザイン：IDept. 写真：大木茂 編集：東京事務所出版広報室



2005年度 国際医療福祉大学 卒業式・修了式

3月10日、国際医療福祉大学的那須アスリーナ・体育館で、2005年度の学部卒業式並びに大学院修了式が行われた。

本

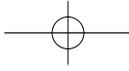
年度の学部卒業生は保健学部、医療福祉学部の合計八五九名で、二〇〇二年度に開設した視機能療法学科と医療福祉学科介護福祉士コースでは初の卒業生となった。大学院修了生は一二六名で、博士課程では六名の博士が誕生した。

式は、卒業生・修了生の後方に多数の父兄や家族が列席する中、コーラス部による校歌「未来への扉」斉唱で始まった。谷修一学長より卒業生総代の言語聴覚学科・川島広明さんに学部学位記が授与され、続いて、開原成允大学院院長より修了生総代の根岸徹さんに大学院学位記が授与された。また、各学科の学業成績優秀者には学長賞が授けられた。

谷学長の式辞(次ページ参照)に続き、高木邦格理事長が「高齢化・少子化の進む中、社会に必要とされる真の人間としての力をもち、自分が社会に残したいものは何かを考えながら歩んでほしい」と式辞を述べた。続いて、来賓としてご出席いただいた千保一夫・大田原市長、須藤揮一郎・栃木県副知事、伊東洋・東京医科大学理事兼学長より祝辞をいただいた。最後に卒業生・修了生代表が謝辞を述べ、記念品贈呈の後、式は終了した。

(東京事務所 出版広報室)





学長式辞

(要旨)

谷修一 学長

▼本日卒業した学生は八五九名、学位記授与を受けた大学院生は一二六名であり、六名の博士が誕生しました。また今年は、視機能療法学科並びに医療福祉学科の介護福祉士コースでそれぞれ初めての卒業生が誕生しました。皆さんに教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

▼本学では、皆さんに医療や福祉の専門職としての教育を行ってきました。専門職の理想の姿というのは、専門分野の背景にある学問と技術の進歩発展に遅れないように、生涯にわたって勉強を続けていく心構えを持っていくこと、また、その仕事

は、個人の利益を追求するのではなく、社会に対する奉仕が基本であり、従って、自分自身に対する厳しい自己規律と強い倫理観が求められるという意味も含まれるという意味も含まれるものであると私自身はいつも考えております。

▼昨年、卒業生に対して行ったアンケート調査の中で、卒業生の五二%がそれぞれ専門分野の学会に所属し、また学会で自ら発表した事のある人は一七%で、多くの卒業生が健闘している様子が窺えます。

▼皆さんは大学を卒業した後も、こういう先輩を見習って努力して、日本国内はもとより広く海外も含めて、人々の健康と福祉の向上のために尽くしていただきたいと思っております。

▼皆さんがこれから入っていく医療や福祉の現場でも時代は大きな曲がり角にきています。しかし制度が変わっても、サービスを提供する専門職とそれを待っている病人や障害者があることに違いはありません。皆さんはこれから現場で経験し、悩み、自分なりに考えて、その時々々の状況に応じて目の前の課題を解決し

ていかなければなりません。

▼本学の卒業生を雇用している施設の九割が、卒業生を必要な人材となり得ると回答し、今後も本学の卒業生を採用したいと言っていたいています。先輩たちに出来ることが、皆さんに出来ない苦はありません。どうか自信と誇りを持って本学を後にしていただきたい。そして皆さんの真剣に歩んでいく姿がとりもなおさず、後輩たちに希望を与えることにもなり得るということを忘れないで下さい。

▼ご臨席いただいた保護者、ご家族の皆様にお祝いを兼ねて一言ご挨拶を申し上げます。大学としては教職員一同できるだけのことをしたつもりではありますが、この間、学生本人の努力はもとよりのこととしても、皆様の物心両面にわたるご支援がなければ今日の日はなかったことを思う時、大学としても皆様に対し改めて感謝申し上げます。

▼今、皆さんが持っている希望や、社会に対する漠然とした不安、また自分の将来への夢や期待、そして多くの若者が持つ自分自身への不確かさなど諸々のものを持ち続けたまま、今の気持ちそのまま、勇気を持って歩き出していきたい。今この瞬間を情熱と勇気を持って生きることこそ、若い人たちに与えられた特権であります。皆さんが、真に清冽にして実りある、そして悔い無きことのない人生を歩まれんことを切望して、私の挨拶とします。

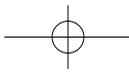
▼卒業・修了する留学生
堤堀内カロリーナさやか (修士課程保健医療学専攻 パラグアイ)
朴晟恵 (博士課程保健医療学専攻 韓国)
蔡毅 (修士課程医療福祉経営専攻 中国)
趙磊 (修士課程医療福祉経営専攻 中国)
劉欣樺 (修士課程医療福祉経営専攻 台湾)
林雅ウエン (修士課程医療福祉経営専攻 台湾)
管娜 (看護学科 中国)
常冬梅 (理学療法学科 中国)
丁偉 (理学療法学科 中国)
李明盈 (理学療法学科 台湾)
林友安 (理学療法学科 中国)
吳葵 (作業療法学科 中国)
沈兆偉 (医療経営管理学科 中国)
趙永春 (医療経営管理学科 中国)

卒業生・修了生概要

■2005年度卒業生	
保健学部	590名
・看護学科	122名
・理学療法学科	99名
・作業療法学科	94名
・言語聴覚学科	100名
・視機能療法学科	47名
・放射線・情報科学科	128名
医療福祉学部	269名
・医療経営管理学科	123名
・医療福祉学科	146名
■2005年度大学院修了生	
・修士課程保健医療学専攻	82名
・修士課程医療福祉経営専攻	38名
・博士課程保健医療学専攻	6名
■学長賞受賞者 (学業成績優秀者)	
・看護学科	関口由香利
・理学療法学科	桑田 康行
・作業療法学科	芳賀 敦子
・言語聴覚学科	川島 広明
・視機能療法学科	深瀬 明子
・放射線・情報科学科	稲穂 晴美

・医療経営管理学科	森嶋 久美
・医療福祉学科	菊地 紀江
■博士課程保健医療学専攻修了者	
杉本 論 (理学療法学分野)	
論文: 慢性期脳卒中患者の歩行自立度とバランス能力の関連について——	
Functional balance scale 下位項目を中心とした検討	
樋口 善英 (理学療法学分野)	
論文: 腹横筋活動評価システムの開発——	
映像波形合成装置の構築	
根岸 徹 (放射線・情報科学分野)	
論文: 乳房X線装置用2層フィルタに関する基礎的研究	
菅野 倫子 (言語聴覚学分野)	
論文: 失語症における構文機能の障害特徴——動詞の項情報の処理からみた文の理解・産生過程の分析	
朴 晟恵 (言語聴覚学分野)	
論文: A Cross Language Study of Stop Sounds in Parkinson's disease: Acoustic Characteristics of Japanese and Korean speakers	

田中 浩二 (リハビリテーション学分野)	
論文: 高齢障害者における環境と身体精神機能との関係についての研究——	
国際生活機能分類 (ICF) 環境因子を用いた定量的分析	
■卒業・修了する留学生	
堤堀内カロリーナさやか (修士課程保健医療学専攻 パラグアイ)	
朴晟恵 (博士課程保健医療学専攻 韓国)	
蔡毅 (修士課程医療福祉経営専攻 中国)	
趙磊 (修士課程医療福祉経営専攻 中国)	
劉欣樺 (修士課程医療福祉経営専攻 台湾)	
林雅ウエン (修士課程医療福祉経営専攻 台湾)	
管娜 (看護学科 中国)	
常冬梅 (理学療法学科 中国)	
丁偉 (理学療法学科 中国)	
李明盈 (理学療法学科 台湾)	
林友安 (理学療法学科 中国)	
吳葵 (作業療法学科 中国)	
沈兆偉 (医療経営管理学科 中国)	
趙永春 (医療経営管理学科 中国)	



博士学位論文発表会を終えて

医療福祉学研究所 博士課程 保健医療学専攻

根岸 徹

二〇〇五年度博士学位論文発表会は、二〇〇六年二月十一日、本学大学院のサテライトキャンパスを結んで行われました。目の前にいらつしやる先生方だけでなく、他の会場からもリアルタイムに質問が行われるといった、国際会議のような雰囲気でした。

私は、「乳房X線装置用2層フィルタに関する基礎的検討」というタイトルで、乳がん検診におけるマンモグラフィの被曝線量低減を主とした内容の博士論文をまとめました。私は現在、大学で診療放射線学部の講師をしていますが、以前、病院の放射線科に勤務していた頃、臨床現場において常に疑問に持ち続けていたことをテーマに研究しました。

すべてのX線を用いた画像には、有益な画像情報を得るための被曝だけではなく、画像を形成していない無駄な被曝が多く含まれています。特に人体における吸収が多い軟X線成分を利用した撮影領域すなわち乳房撮影などにおいて、有益なX線被曝とはどのくらいのエネルギーなのかという疑問があり、無駄なX線を減らすことはできないのかという検討をしてみました。

単純にX線量を減らしたり、X線エネルギーを高くすることにより被曝を低減することは可能ですが、画質が劣化し診断価値が低下してしまいます。そこで、

画質に影響をほとんど与えず被曝を低減させるために画像を形成しないX線エネルギーを測定し、選択的に低エネルギー成分を除去するためのフィルタ物質の解析を行い、有効性を実証しました。

研究を進める中で、まるでパズルのピースが埋まっていくように疑問が解決し、とても楽しく思えました。もちろん難関にも幾度となくぶつかり、現在の測定器では解決できない問題や途中で間違いに気付き、やり直したこともありましたが、それらを支えてくださったのはご指導いただいた飯沼一浩教授をはじめとする本学大学院の先生方です。X線装置メーカーや測定器メーカーの方々のサポートが得られたことも大きかったと思います。

発表会でできるだけ多くの方に理解していただけるよう、難しい専門用語を極力使用せずに膨大なデータをよりわかりやすくグラフや表にまとめたこと、その際、グラフや表にまとめることの難しさを学びました。

質疑応答では、温かいご意見やご指摘をいただきました。それらを念頭におき、今後は被曝低減と画質向上に関する研究を続け、少しでも多くの方に良い画像情報を提供していきたいと考えております。

今後も研究活動を続け、医療従事者の一員として患者様により良い医療情報を提供できるよう努力していきたいと存じます。

最後になりましたが、国際医療福祉大学大学院を修了するにあたり、お世話になりました多くの教職員の方々に感謝の意を表します。

大学院学位記授与式を終えて

医療福祉学研究所 博士課程 保健医療学専攻

菅野 倫子

大学院博士課程を修了し、学位を取得したことは、私にとって大変感慨深いものでした。修了生の多くが働きながらの学生生活であり、皆、医療・福祉職として出会うクライアントにより効果的な支援をしたいという志をもって、本大学院の門戸を叩いたのだと思います。私も言語聴覚士、また本学助手として勤務した経験から、「言語聴覚士がよりよい評価、支援を行うために役立つ研究をしたい」という想いをもって課題に取り組んできました。

時には新幹線で東京と那須を往復し、時には研究計画を白紙に戻して考え直しました。論文執筆中には一つの文がどうしても書けず、オリオン座が東から西の空へと移動するさまを眺めたこともありました。しかし、共に山を乗り越えようとする仲間達の姿に奮起し、夢中の三年間を経て、那須の北風を春の追い風に変

えることができました。

大学院では、院生同士や諸先生との議論を繰り返して思索を深めますが、研究テーマの追究は基本的に孤独な過程であり、解明の過程は、知力、体力、精神力の限界に挑むものだと感じています。しかし、混沌とした解明の道筋の中で真理の一端を垣間見ることができ、そして成果をまとめることができたときの喜びと達成感は何物にも変え難く、さらに次の研究意欲をかきたてるものでした。今、振り返ると苦闘の時期が実は自らと向き合えた幸せな時間であり、それによって今の自分があると思います。

これからの私達には、激動の医療・福祉情勢の中で、理性和知性をもって課題に取り組む、自らの役割を果たすことが求められていると思います。さらに強い志と豊かな感性を持って冷静に思索し、できることを一つずつ実現していくことにより、日本のみならず世界の医療・福祉に広がる仕事を多くの仲間と共に成し遂げていきたいと思えます。最後に大学院生活を通して常に見守ってくれた家族と、ご指導くださいました諸先生に深く感謝申し上げます。



写真上：大学院学位記授与式にて、開原成允大学院院長より学位記を授与される根岸徹さん。

写真下：大学院修了祝賀会で高木邦格理事長（左）、研究指導教員の藤田郁代教授とともに。中央が菅野倫子さん。

卒業メッセージ

卒業生七名が本学を巣立つ思いを綴った。



「共に生きる社会」の実現を目指して
保健学部言語聴覚学科 川島広明

言語聴覚士の仕事につきたいと思い、本学に入学して四年が経ちました。大学での思い出は手話、ボランティアのサークル活動や臨床実習であり、その中で障害を持つ方々との出会いが今の自分に大きな影響を与えていると思います。臨床実習では、初めての経験に戸惑っている私に患者様は優しく合わせてくれるそんな未熟な私を先生と呼んでくれる患者様に対してもっとできることはないのかと考え、常に向上し続けなければならぬと感じる日々でした。また、サークル活動では健常者からみた社会と障害をもつ方からみた社会との違いを知り、両方の社会の中でサークルを運営するためにはどうしたらいいのか、仲間たちと一緒に悩み、議論をしたこともあります。これらのことが今の自分の向上心や自信の源になっていると思います。

大学を卒業しますが、卒業は終わりではなく、スタートラインに立つことだと思っています。これからも仲間たちと本学の理念である「共に生きる社会」の実現を目指し、努力していきたいと思っています。



視機能療法学科初の卒業生
保健学部視機能療法学科 深瀬明子

この四年間には、たくさんの人との出会いがありました。学科の仲間や先生方だけでなく、実習先では職員の方、子どもたち、入所者の方、そして学外の幅広い年齢層の人と接する機会がありました。実習では、各施設で働く方々の考え方や患者様・入所者の方への接し方を近くで見、様々なことを学びました。

一年生の時のオープンキャンパスでは、まだ検査機器にも触ったことがなく、眼に関する知識もまったく無い状態でしたが、当日に操作法を習い、初めて白衣に袖を通して来場者の方々に説明をしました。視機能療法学科初の運動会では、一年生の人数が他学科に比べて約半分の上、私たち一年生のみだったため、一人何種目も参加し一日中走り回っていました。筋肉痛になりましたが楽しかったです。

どの思い出もこの大学で、この仲間たちからこそ経験できたことだと思っています。病院の眼科で視能訓練士として働きますが、実習で検査を受ける側の立場で感じた大変さや不安を忘れずに患者様のことを考えられる視能訓練士を目指します。



本学の臨床医学研究センターに就職
保健学部言語聴覚学科 田中敏恵

言語聴覚士になりたいという夢を抱き続け、大学で学んだ四年間。あっといいう間に感じますが、思い返すと本当にたくさん学んだことを学び、経験してきました。

特に、失語症友の会「那須ひまわり会」の支援をするサークル「☆スラオ☆」では代表を務め、人の前に立つことの難しさ、仲間と力を合わせて活動することの喜びを学びました。会員の方々とそのご家族の温かさに触れるたび、言語聴覚士になるぞという思いは強くなっていきました。四年次の関連職種連携実習では他学科の学生とディスカッションをし、それぞれの職種の視点に触れながら、チームアプローチにおける各職種の役割、言語聴覚士のあり方を考えさせられました。

四月からプロとして臨床の場に出ます。本学の臨床医学研究センターである化学療法研究所附属病院に就職し、目に見えず理解されにくいコミュニケーション障害を伝え、個々のニーズに対応できる柔軟性のある言語聴覚士になりたいと思います。時には先生方から助言をいただき、これからも学び続けていこうと思います。



夢を叶えるスタートラインに
保健学部看護学科 松本晴美

大学での四年間には、いろいろなことを詰め込んで、まるで遠足のための荷造りが終わったような満足感があります。

四年次に参加した「学生&企業研究発表会」では、「臨床実習を通して捉えた看護におけるリハビリテーション」を研究発表しました。発表会には様々な分野の方が参加され、看護に特別な興味を持っている人ばかりではありません。そのうえ看護を学び始めて少しの学生の研究。窮地に立たされたという感じです。それでも、多くの質問を受け、看護師もリハビリテーションに積極的に参加することが必要だという思いは伝えられたと感じました。銀賞を頂いたことも嬉しかったです。

ですが、この経験が自信となりました。四年間失敗の連続でしたが、懲りずにとくさんのことに挑戦してきました。それは、横を毅然と歩いてくれるような友だちのおかげです。ようやく今、看護師として夢を叶えるスタートラインに立つたところです。障害を持っていてもその人らしく生きる権利を取り戻すお手伝いをしていきたいと思っています。

親子ほども歳の違う学生と肩を並べて
保健学部放射線・情報科学科 前原正義

二五年前の高校卒業当時、私は漠然と化学を専攻しましたが、いつしか科学の行く末である生命科学、医学への貢献という純然たる目標と、確固たる目標をもって友人の遠い過去の記憶とが重なり、診療放射線技師へと導かれ、開学間もないころから知っていた大学の放射線・情報科学科の門を叩きました。

親子ほども歳の違う学生と肩を並べ、回らなくなりつつある頭をゆっくり確実に働かせるために、自分で考え、集中力を注ぎ、目・耳、ありとあらゆる感覚を研ぎ澄まして経験することを基本として、四年間学びました。今後は、切実感と緊張感を肝に銘じて、医療関係者だけでなく、これまでに築き上げたさまざまな分野の方との人脈を大切にして、個人の意思を尊重し、医療・医学へ貢献するとともに、医療分野で先頭に立つて活躍できる人材の育成などに尽力したいと思えます。

四年間支援していただいた方々に感謝の意を表します。特に自分のわがままの成就のために苦労をかけた家族に感謝しても感謝しきれない気持ちで一杯です。



北京の家族と離れ学んだ四年間
保健学部理学療法学科 常 冬梅

大学で過ごした四年間は、長いようであつという間でした。知らない大田原での生活は不安で、言葉の壁や勉強の大変さ、家族と離れ離れの辛さにはしばらく慣れることができませんでした。北京にいる子どもとの電話は切りがたく切っても辛くてずっと泣いていました。とにかく無我夢中で余裕などありませんでした。

しかし、親切な先生方とクラスメートの支えがあつたからこそ、四年間を無事に乗り越えることができました。早く卒業したいと思っていました。せつなくみんなと仲良くなれて毎日楽しくなってきたのに今ではすぐく残念です。卒業してからはそれぞれ別の道を進みますが、ずっと仲良くしていきたいと思えます。

この大学では資格を得たほか、離れたことでもかえって家族の大切さを感じ、仕事では科学的根拠の大切さを見つけることができました。これから本学大学院に進学しますが、中国に帰ったら学んだことをどのように活用するかが課題です。四年間を思い出し、苦しいことがあつてもくじけずに頑張っていこうと思えます。



中国の作業療法の発展に尽くす
保健学部作業療法学科 呉 葵

私は、留学生としての学習生活に終止符をうち四月から新しい生活に入ります。四年前、物理療法を担当していた私は、将来の中国の作業療法事業の発展のため、来日して国際医療福祉大学に入学し、作業療法を学び始めました。

顧みれば四年間、作業療法に関わる知識を系統的に勉強することを通じて、人間生活に特徴的な作用を意識し、作業療法士としての役割と責任を自覚し、仕事のイメージを持つことができました。日本の作業療法の国家試験を受け、成績はまだ発表されていませんが、現在自分の心は穏やかで気持ちは落ち着いています。成績の良否に関わらず、大学で得た知識を持ち帰り、中国の作業療法の現場で自分の力を尽くすことが重要だと思えます。

日本での四年間、生活面、学習面で、いつも先生やOssunaや友人に援助してもらったことが心から感謝します。友人はそれぞれに就職し、私も中国に戻り、皆と会うチャンスが少なくなるのが残念です。でも、国際医療福祉大学と先生および日本の友達のことを忘れません。



カフェテリア万歳!!

本学創設にご尽力され、初代看護学科長を務められた荒井蝶子先生が3月、退官された。



大学院教授
荒井蝶子

開学から十年を経て、大田原のキャンパスは学習の場としてハード、ソフト両面において必須条件をクリアした。そして学生や教員が居心地よく、生活や休息の時間を楽しめる居場所を共有できるようになった。カフェテリアには、なごやかな雰囲気と開放感が溢れる。熱いコーヒーをリクエストしてテーブルを囲み、味わい、気楽な会話を交わす。ここでは食事以外に、フツと息抜きをする時間と空間をもつことができる。道沿いの木々の成長や季節感を実感することもできる。

たしかに、大学は学ぶために存在する。「学ぶ者達」と、その若い人達を支える「教師達」は、このカフェテリアで同じテーブルに着き、同じ食事を共にする。そういう平等さ、自由さが私はたまらなく好きだ。ただそれだけの場所が、キャンパスライフの大切な意味を象徴しているように思う。それぞれの専門性を極める人達が同じ場所に集う。相互の語りが発展すれば、専門分野の垣はすぐに取り払われ、共通の話題が広がる。一方、自分の専門と遠く離れた人に自らを語ることもなっていく。そんな十年を重ねた。自ら選択した分野のエキスパートゆえに、異なる分野の特殊性に興味を膨らむ。親しくなって話すことで発想の転換が生まれ、ユニークな解釈の芽が萌える。十年を経た本学が、各分野の特性に刺激され合い、思いがけない展開を遂げ、発展し続けられることを切望してやまない。

**学会規定の受験資格と
修士を取得**

開原…昨年四月、本学大学院の修士課程に日本で初めてのコース、生殖補助医療胚培養分野（胚培養士養成）ができました。今日お集まりの先生

方にこの分野を企画し、育てていただいたわけですが、一年間を振り返りながらお話を進めさせていたただきたいと思えます。このコースを作ろうということになった意義や目的をお話しいただけますでしょうか。

井上…胚培養士（エンブリオロジスト）の資格が日本哺乳動物卵子学会で認定されるようになって今年で五年が経ちます。医者が各病院が独自に胚培養士に習得させてきたのですが、そうするとどうしてもばらつきが出て待遇なども不安定になります。それで学会で認定してきちんとしたものをつくらうということになりました。学会としては、管理胚培養士という上のステップも考えているところです。

開原…今の段階として認定制度はできたが、正式な養成コースは本学のコース以外にはまだないということでしょうか。柳田…正式に聞いているところでは、まだないのではないのでしょうか。このような養成コースは、外国にも沢山あるわけではありませぬ。新しいコースだと思えます。開原…認定を受けるには、少なくともこのくらいの知識は持っていないといけないというカリキュラムはお考えになっていない



開原成允大学院院長

元大蔵病院院長。元国際医療情報学連盟（IMIA）会長、厚生労働省要介護認定調査検討会委員長。東京大学医学部卒、医学博士、東京大学名誉教授。

大学院コースを出ると胚培養士の受験資格が得られるということですね？

～大学院・生殖補助医療胚培養分野開設から一年～



井上正人教授

国際医療福祉大学教授、臨床医学研究センター・山王病院院長。腹腔鏡下での診断・治療は8000例を超え、日本最多の症例数を有するわが国の不妊治療の第一人者。日本哺乳動物卵子学会理事長、日本産科婦人科内視鏡学会理事、第42回日本哺乳動物卵子学会大会長、第27回日本生殖外科学会大会長他。慶応義塾大学卒、医学博士。



柳田…私がというよりも、体外受精などの治療を行う生殖補助医療をとりまく胚培養士を含めていろいろな人たちがという意味だと思えるのですが、おそらくそんなに意識を持って臨んでいなかったのですか。

開原…どういことを教えるかという基準もはつきりしていなかったのでしょうか。井上…昨年、学会が教科書を作りました。認定試験を受ける人には勉強してほしいと。教科書というかたちでようやく作って、立派な本ができました。柳田…それが足がかりになってステップとなりました。

開原…それを本学のコースが修士というかたちで吸収したのは、タイミングがよかったわけですね。柳田…学生は本学大学院で、胚培養士に必要な知識と技術を習得し、認定試験の受験資格を得られ、修士も取れるということになります。

胚培養士を目指す人とスキルアップに
開原…コースを開いて、昨年四月には学生さんは何人入ってきたのですか。柳田…七人ですね。九州の小島先生のところにも、東京の井上先生のところにも五名、栃木の私のところに一名です。開原…初年度にははかかなり多いですね。柳田…このコースは一般入試もありますが、

社会人入試の方が多かったです。四年制大学を卒業後、修士課程に進むのならこのコースでとか、あるいは胚培養士を目指してトレーニングしようという方もいます。薬学部出身で、薬剤師として働いている方もいます。ほかに胚培養士の方がスキルアップあるいはキャリアアップのためにいらつしゃっています。今年度は七名のうち四名の方が胚培養士として仕事をされている方でした。その方たちのバックグラウンドは臨床検査技師育成の学校を卒業されています。技術的には、培養室の室長をなさつてもいいぐらいの実力を持った方もいます。胚培養士を管理する管理胚培養士を狙う場合、修士を持っていないと試験が受けられないということもあり、そういうニーズもあるかと思えます。

小島…九州の学生さんもベテランの検査技師です。キャリアアップだけでなく、勉強したことがとても自分のためになったと話しておられました。井上…好評だったのは、一流の講師陣を集めたことも一因ではないでしょうか。今年はある病院の院長がこのコースはいいから是非にと勧めたという話もありました。開原…立派な講師陣には、先生方のほかにも外部からいろいろな方を迎えたのですか。

柳田…胚培養の領域は産婦人科のほか泌尿器科、倫理、生物学などいろいろな分野に渡り、私たちだけのレパトリーでは不足する部分が出てきます。新しいコースをアピールしたいということもあったので著名な先生方を選ばせていただきました。開原…具体的に授業はどんな格好で進行したのですか。柳田…授業のテーマを決め、通年のカリキ

ユラムを組みました。学生さんから、もう少しいろんな知識がほしかったという声があったので、来年度は一・五倍にボリュームアップします。

開原…本学の大学院のカリキュラムには共通科目があつて、どなたが聞いてもいい。生命倫理もあるのですが、お役に立ちましたか。

柳田…はい。むしろ臨床遺伝学特論がコースの内容によくリンクしていて非常に良かったと学生さんから聞きました。これは必修にしております。

開原…授業はもちろん遠隔授業で？

柳田…そうです。東京・乃木坂で発信する場が多かったですね。

開原…小島先生が九州発信で講義をされたこともありますか。

小島…はい。高木病院から一五分ほどのところに柳川リハビリテーション学院がありまして、そこで遠隔授業をしています。一八年度から、キャンパスは柳川から病院のある大川に移りますが。

開原…遠隔授業は特に問題ありませんでしたか。

小島…はい。声は思ったより聞き取り易かったので支障もなく、みんな楽しんで授業ができたと思います。

山王・高木・国際医療福祉病院で実習

開原…一年目は大変好評のうちに終わったようので嬉しく思っておりますが、いよいよ二年目に入ります。新しい学生さんに対してはどんなことを



柳田 薫教授 (分野責任者)

国際医療福祉大学教授、臨床医学研究センター・国際医療福祉病院リプロダクションセンター長。顕微授精（卵細胞質内精子注入法）で日本初の妊娠・分娩に成功。卵活性化併用法では世界第1号の報告者。研究が世界体外受精会議記念賞等受賞。日本受精床学科評議員他。福島県立医科大学卒、生殖医療指導医、医学博士。



小島加代子教授

国際医療福祉大学教授、臨床医学研究センター・高木病院産婦人科部長。佐賀大学医学部臨床教授。生殖医療指導医。日本不妊学会九州支部評議員、日本産婦人科学会専門医他。佐賀医科大学卒、医学博士。

■ 座談会 「胚培養の将来」

計画していますか。

柳田…入学される方は六名で、本格的に胚培養士として働いていた人は二人だけです。ほとんどが初めて門戸をたたいた方なので前年と違い、基礎知識を含めて先ほど申し上げたようにボリュームを膨らまし、うつつけのボリュームになっているのではないかと思います。

開原…このコースを開設した理由の一つに胚培養士が足りないということがありますので、全く経験のない人たちが入ってきて胚培養士として育っていくのは大変いいことではないでしょうか。

井上…四年制大学の動物学科で核移植をやっていたとか、畜産をやっていたとか、技術的には我々よりやっている方が結構来ています。

開原…そうすると逆に技術は持っておられる。しかし医療の世界は初めてという方ですね。それはまさにある意味ではコースの意図した対象かもしれませんね。一方、二年目に入る方々はどうなりますか。

柳田…実習です。実習は一六単位で、一日あたりの実習時間が異なりますが、大体二〇週から三五週くらい。東京は井上先生の山王病院、九州では小島先生の高木病院、

栃木では私の国際医療福祉病院で実習します。個人個人で技術や知識のレベルが違うと思いますが、病院によってもタッチが違ふと思います。なるべく差がでないように研修目標を細かに設定して自己評価というかたち

で項目を作りました。今回作るにあたっていろいろなるものを参考にしたのですが、研修項目の設定についてはおそらく日本にはなかったと思いますので、いい例になるのではないのでしょうか。

開原…特に実習が始まると学生さんのいる場所が必要になりますが、その辺何かご苦労は？

井上…山王病院には胚培養士が八人います。精子の検査から人工授精や体外受精など仕事量は多いので実習は充実していると思いますが、やはりスペースが狭いのが気になります。

高度な技術が求められ、ニーズは高まる

開原…本学の大学院生は社会人がほとんどなのですが、院生のいる居心地のいい部屋がなく申し訳なく思っております。場所の問題はあるにしても、おかげさまで一年が経過して来年も大変順調に移行しそうな感じを受けたところで、もう少し先の将来を見越して、このコースは今後どうなっていくのでしょうか。需要は沢山あるのでしょうか。

井上…この間新聞報道されたように着床前診断が広がって、習慣性流産、特に染色体異常の診断も学会に承認されました。そうするとまた特殊な仕事が出てきます。デンマークでは三六歳以下だと一個の受精卵しか戻してはいけなさと法律で決まっているわけですが、そうするとたぶん将来は染色体検査して間違いなくいいものを戻すという方向になって、仕事が複雑になってきて染色体の分析から全部できないといけなくなってくる。これはとても医者のできる仕事ではありませんが、非常に特殊な技術者が必要になります。

■ 病院データ



臨床医学研究センター・山王病院

(東京都港区)

全75床に80名の医師を有し、質量ともに充実した都市型病院。リプロダクションセンターは日本で第4・5・10番目の体外受精、日本初のGIFT・ZIFT児、日本初の超音波ガイド卵採用による体外受精児を誕生させ、日本最多の腹腔鏡下診断・治療を行っている。

- 体外受精 300件
- 顕微授精 800件
- 配偶子卵管内移植GIFT 20件
- 体外受精卵管内移植ZIFT 30件
- 腹腔鏡下手術 500件
- 人工授精AIH 3,283件

注：数値は2004年4月～2005年3月の合計。



臨床医学研究センター・国際医療福祉病院

(栃木県那須塩原市)

1998年に開設した栃木県東北地域の基幹病院(206床)。リプロダクションセンター(2004年10月開設)には柳田センター長をはじめとする実績を誇る医師、胚培養士(エンブリオロジスト)、カウンセラーなど不妊治療のエキスパートを配置している。また、当センターの特色としてはFTカテーテルが挙げられる。

- 体外受精 25件
- 顕微授精 25件
- FTカテーテル 12件
- 腹腔鏡下手術 40件
- 人工授精AIH 300件

注：数値は2005年3月～2006年2月の合計。



臨床医学研究センター・高木病院

(福岡県大川市)

95年の歴史を誇り、大川市をはじめとする福岡県南部地域の基幹病院、救急指定病院(506床)。不妊センターは国内トップクラスの実績を誇る。女性の小島センター長や不妊カウンセラーが患者様の心のケアにも努めている。

- 体外受精 344件
- 顕微授精 158件
- 人工授精AIH 277件
- 腹腔鏡下手術 28件

注：数値は2005年1月～12月の合計。

開原…それも先生のお考えでは将来、胚培養士のやる領域になると？

井上…ヨーロッパでは、姿形ではなく異常のない精子を選ぶラボを作るべきだという意見もあります。卵子は選べないですから、精子は何百万、何千万といえますから。そこからどうやっていい精子を見分けるか。今でも卵子がいいか悪いか見かけで見ているのですけれども、たぶん将来的にはそういう方向に行くのではないかと。そうすると仕事ももっと複雑になってくるでしょうし、今までよりもっと高度なものが要求されると思います。胚培養液だって今は輸入していますが、これからはたぶん日本人にあった培養液ですとか、若い人向きとか四〇歳過ぎの人向きとか、これからどんどん開発されるのではないのでしょうか。そのためにも研究レベルでもやれる胚培養士が必要になってくるのですよね。輸入では一瓶(一〇ml)二〜三万円しますから、いずれ国産でいかなければいけないでしょう。

開原…柳田先生は将来のことはいかがお考えでしょうか？

柳田…いろいろ話を聞きますと、やはり心用力がある方が求められていますね。何か問題にぶち当たったときに解決する力を持つ

っている、教育、訓練を受けている方から残っていくのだと思います。海外ではPhDの方がメインですが、胚培養士にクオリティが求められることになっていくと思います。あと胚培養士は女性が多く途中でやめになる方がいらつしやるのでどうしても需要が出てきてしまい、ニーズは続くのではないかと思います。

開原…小島先生いかがでしょうか？

小島…胚培養士は高度な技術をもっています。また、こんなに多くのコメディカルスタッフが発表するのは珍しいと言われるくらい学会で活躍しています。高度な技術と研究を習得・修得することのできる大学院のこのコースは、今後、ニーズがアップしていくだろうと思います。

八組に一組が不妊、治療のための休暇も

開原…このコースの将来も前途洋々たるものがあるということだと思います。最後に胚培養士が必要とされる社会的背景を振り返っておきたいと思っています。

井上…不妊のカップルは八組に一組くらいです。妊娠しやすい時期は決まっていますが、晩婚化で、しかも子どもをなかなかつ

くらず、妊娠しにくい人が増えています。日本では体外受精で生まれてくる子供は六〇〜六五人に一人です。デンマークでは二〇〜二五人に一人ですが、いずれ日本もそうなるのではないのでしょうか。若い人にクレンジアも増えていますし、年齢が高い人には時間的余裕がなく、即効性のある体外受精に頼らざるを得ない。それと今度の春闘で、電機労連が不妊治療休暇を要求して認められたのは大きいと思います。子どもをつくるために休みがとれるようになると、早く治療でき、治療に来る人も増えます。

開原…不妊治療には一定の休みが必要なのですね。

井上…山王病院にいらつしやる方にはキャリアウーマンが多いせいか、四〇過ぎで来られる人が多く、四四、五歳の方も沢山おられ、最高で五一歳の方もいらつしやる。不妊治療には年齢がきついで、若いうちに治療できれば非常にすばらしいことです。

開原…そうすると、胚培養士もそれにとまってどんどん需要が？

井上…お勤めしている人のために多くのクリニックが夜間診療をやっています。六時半まで受け付けて八時、九時までやっています。毎日やるとなるとスタッフも大変で

すが、患者様も仕事が終わってからで大変です。休みをとれるようになれば、今まであきらめていた人も来られるようになるので、治療も増えていくでしょうし、したがって胚培養士も必要になってくるでしょう。

開原…今、胚培養士はどのくらいいるのかかっているのですか？

柳田…日本哺乳動物卵子学会の認定胚培養士は約四〇〇人。日本で体外受精をしている六〇〇施設のうち、認定胚培養士がいるのは推計で二二〇施設くらいだと思います。

開原…今は、認定を受けなければ胚培養の仕事をしてはいけないとはなっていないですね？ それから、本学の大学院コースを出ると胚培養士の受験資格が得られるということですね？

柳田…はい。受験資格には、日本産科婦人科学会に登録した施設で年間三〇例以上の実習実績が必要です。本学のこのコースでは知識と技術を実習で学び、かつ受験資格も入手できるのです。

開原…本学大学院修士課程の二年間で実習すれば受験資格が得られるということですね。さらに専門職大学院なら一年で修得できますので、本学も検討していきたいと思っています。

(構成・出版広報室)

TOPICS

トピックス

TOPICS

高木理事長が東京大学で講演

二〇〇六年一月二六日、東京大学本郷キャンパスの医学部鉄門記念講堂で、高木邦格理事長による公開講座「医療経営学概論」が開講された。

「二一世紀の病院経営のあり方」と題し、日本の医療の現状、公的医療保険の変貌などのほか、本学グループの病院経営にまで及ぶ内容となった。国家財政の破綻により医療の担い手が官から民へ移らざるを得ないこと、医療がサービス業と位置づけられるなど医療提供体制に変化が生じていることなどが指摘された。

東大生を含む約二〇〇名の聴講者は、高木理事長の話に聞き入った。なお本講座は本にまとめられ、今夏刊行される。

(東京事務所出版広報室 村田るり)



演壇に立つ高木理事長。

日本病院管理学会第二四二回例会、本学で開催

二月十八日(土)に日本病院管理学会第二四二回例会が開催され、「医療・介護保険制度改革と経営戦略―診療報酬・介護報酬の視点を中心に―」をテーマにシンポジウムが行われた。

まず、高橋泰学科長から医療制度構造改革が今後の病院経営に及ぼす影響について、議論の全体像が示された。水巻中正大学院教授は制度改革の問題、介護難民の懸念を表明し、多面的で包括的な地域ケアを推進することへの提言を、大西正利助教からは診療報酬改定に関する資料をもとに改定ポイントの分析があった。最後に安藤高明医療法人社団永生会理事長・全日本病院協会副会長が「診療報酬改定と病院経営」を取り上げ、今回の改定の焦点である療養病床問題を鋭く指摘するとともに、自院での実際の取り組みとして現場の生の声を紹介した。

今回のテーマは今後の医療福祉経営を左右する診療報酬改定発表直後ということもあり、開催案内直後から反響を呼び盛会であった。開かれた大学として地域、医療・福祉施設に貢献する役割が実感される例会であった。

(医療経営管理学科助手 磯伸彦)

中国に対するJICA協力

本学は「国際協力機構(JICA)中国リハビリ専門職養成プロジェクト」に

四年前から協力している。理学療法学科(P.T.)と作業療法学科(O.T.)の留学生を受け入れると同時に、本学P.T.・O.T.両学科から教員各一名が北京に常駐して活動を続けている。私は二年前にも八カ月から四カ月の派遣であった。

中国には推定約六〇〇〇万人の障害者がいるが、リハビリ医学分野の一翼を担うP.T.とO.T.分野は立ち後れている。プロジェクトは五年間で、目的は中国初のP.T.とO.T.に分かれての大学教育の実施と、国際水準に上げることである。具体的には授業編成、教員の水準向上等に対する助言等である。赴任中の主な業務は講義、臨床実習・課題研究(卒業研究)等の指導および指導者への支援である。

学生の熱意と優秀さに触れた。JICA北京事務所の要請で、柳州市人民医院で活躍中のP.T.の青年海外協力隊員との連携を試みた。隊員は本学四期卒業生の金澤郁恵さんで、教員と卒業生が同じ国際協力の場で出会い、協力することとなった。(理学療法学科助教 秋山純和)



柳州市人民医院訪問。右から二番目より、Dr.Bing副院長、秋山純和助教、卒業生の金澤郁恵さん。

二〇〇六年度入試日程終了

三月四日の一般入試後期日程で、二〇〇六年度入学試験が全て終了した。

今年度は新設の「小田原保健医療学部」が加わり、五学部十四学科として初の入試であった。二〇〇七年度に予想されている「大学全入時代」目前の今年、広報活動や学生募集活動は大変厳しくなっているが、本学では志願者総数は八八五二名、対前年二一八二名の増加となり、志願者総数・対前年志願者数とも開学以来最高となった。

志願者数の増加には、「小田原保健医療学部」の新設が大きく影響している。「小田原駅隣接都市型キャンパス」という条件が、これまで比較的志願者数の少なかった南関東地域(主に神奈川県)からの出願につながった。また、昨年度開設した「リハビリテーション学部」についても対前年五二名の増加となり、全キャンパスにおいて本学の専門職教育に寄せられる期待の高まりが示された。

(本校入試事務室)

2006年度入試 学部別志願者数

学部	定員	志願者数 ()は昨年度
保健学部	480名	4274名 (3772名)
医療福祉学部	240名	754名 (698名)
薬学部	180名	1041名 (1887名)
リハビリテーション学部	80名	825名 (313名)
小田原保健医療学部	130名	1958 (-)
合計	1110名	8852名 (6670名)

TOPICS Column

トピックス **学生から**

理学療法学科、国家試験激励炊き出し

毎年恒例の理学療法学科四年生への炊き出しは、二月七日から三月二日まで計七回行われ、三年生がカレーや焼肉丼など“旨い！”手料理を振舞ってくれました。こだわりシェフたちが仕上げに合格祈願の思いをスパイスして、味はまさに天下一品！

猛勉強中の四年生にとって栄養補給と安らぎの時間となりました。最後に三年生から熱いエールが送られ、国家試験に向けて士気が一層高まりました。
(理学療法学科四年 田辺理恵)



日頃ありつけない御馳走(?)を目の前に満面の笑みがこぼれる。

大川キャンパスにグラウンド
 本学は二月十三日、福岡県大川キャンパスに隣接する県立大川高校跡地(約三万四〇〇〇㎡)を大学及び関連施設用地として取得することで大川市と合意した。大川キャンパスの学生は、開学初年度、グラウンドがないまま学ぶこととなったが、の用地拡大に伴いグラウンドが整備され、新たな環境で学ぶことができるようになる。用地には他に、鉄筋四階建て、約七〇〇〇㎡の新校舎を建設する。総工費は十五億円、着工は五月の予定。
 なお同キャンパスには二〇〇七年度より言語聴覚学科を新設、理学療法学科の定員を四〇名から八〇名に増員する計画がある。
 (九州広報 原田ちはる)



右の茶色の建物が大川キャンパス。新たに広がる大川高校跡地は、中央の野球場とグラウンド、手前の校舎三棟及び右の体育館部分。奥には高木病院が建つ。

大学院に新キャンパス開設

本学大学院においては、本校の他に東京・熱海・福岡・大川(二〇〇六年四月、柳川より移設)にサテライトキャンパスを設置し、同時双方向テレビ会議システムを用いた遠隔授業を行っている。
 二〇〇六年度より、神奈川県小田原キャンパス内に小田原サテライトキャンパス、熊本県の国立病院機構熊本医療センター内(熊本市二の丸)に熊本教室を開設する。なお熊本教室は、熊本医療センターの職員を対象としたキャンパスである。

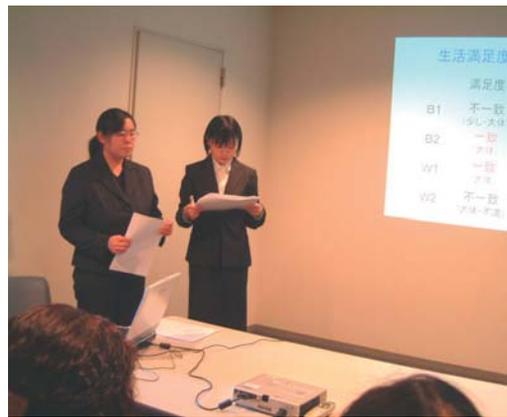
今後とも、より質の高い高度専門教育・研究の場を提供していきたい。
 (大学院東京キャンパス 大澤倫子)

言語聴覚学科、卒業研究発表会

一月六日、本校演習室において言語聴覚学科の卒業研究発表会が行われた。言語聴覚学科では二年間かけて卒業研究を完成させる。三年生前期に論文詳読をしながら構想を立て、四年生前期までは各テーマに沿って研究を深めていく。四年生後期には論文を書き上げ口頭審査を受けて成績が判定される。臨床実習、国家試験対策勉強、就職活動なども並行して進めるので学生にとっては厳しいが、臨床と研究は相補的なので、卒後大いに役立つものと信じている。
 (言語聴覚学科教授 城間将江)

那須野ヶ原協働フォーラム開催

地域力を高める協働



卒業研究の口頭発表をする学生。

二月二五日に「那須野ヶ原協働フォーラム」が開催され、地域のボランティア、市民活動団体等を中心に一二〇名を超える参加があった。様々な団体・機関が「協働」することにより、より有益な地域活動が展開できるのではないかと、その可能性について、パネルディスカッション及びテーマ別の分科会が行われた。
 本学のIUHWボランティアセンターではボランティア活動を媒介にして分科会のテーマでもある「大学と地域の協働」を考えている。参加者からは、「大学で教えている専門知識・技術を学び、活動に生かしたい」、「これまでも学生ボランティアと一緒に成長してきた。これからも共に成長していきたい」、「学生ボランティアを導入したいが、どのようなことをお願いしていいかわからない」など、様々

TOPICS



前列右から六番目より谷学長、岡崎会長、開原大学院院長と奨学生。

**ニッセイ同和・岡崎会長と
奨学生の懇親会を開催**

二月十五日、本校の那須アスリーナ・レストラン「オーブ」にて、谷学長はじめ各学科長とニッセイ同和損害保険株式会社から奨学金の支給を受けている奨学生二二名が参加して、同社代表取締役岡崎会長を囲んでの懇親会が開催された。

この奨学金制度は、同社の創立百周年記念事業として、保健・医療・福祉の有益な専門職の育成を目指す本学の趣旨に賛同して設立されたものだ。奨学生は毎年成績優秀者の中から選ばれ、今年で九年目となった現在では、二七名の学生が奨学金の支給を受けている。

谷学長の歓迎の挨拶に続いて、岡崎会長からは「大学で学んだ事を十分に生かし、社会に貢献していただきたい」との挨拶があり、各奨学生からは学校生活や私生活についての近況報告があった。また、今年卒業する四年生八名は「本制度の趣旨に反しないよう、卒業後は保健・医療・福祉の現場で社会貢献することが恩返しにつながると考えている」と、感謝とお礼の言葉を述べた。(本校学生課)

**乃木坂スクールで
介護・診療報酬特別講義**

本学大学院の公開講座「乃木坂スクール」では、一月一六日、二三日の二週にわたり、厚生労働省より三浦公嗣老人保健課長ならびに麦谷真里医療課長をお迎えし、関心の持たれている介護報酬及び診療報酬の改定についての講座を開講した。これは、二〇〇五年度後期「二〇〇六年度に向けての医療福祉制度改革」コースの締めくくりとして開講されたもので、両日とも一〇〇名を超える方が熱心に聞き入った。



乃木坂スクール受講風景。

**国際医療福祉大学グループ関連病院
第一回看護研究会開催**

二月十八日、乃木坂ホールに関東地区五病院の看護職七〇名が参加し、初めての看護研究会が開催された。

高木理事長より「患者様の気持ちに寄り添うサービスこそが看護の本質である」と旨のご挨拶を頂き、各病院の発表に移った。

この会は昨年六月に発足した看護部長

『国際医療福祉大学十年史』刊行

『国際医療福祉大学十年史』が刊行された。第一部・国際医療福祉大学の教育、第二部・記録で見える国際医療福祉大学、第三部・資料の三部構成で、全一六八ページ。写真で綴られた「十年の歩み」や初代学科長による創立当時のエピソードのほか、過去七年分の国家試験合格率や就職内定状況など十年を集大成したものである。本学図書館で閲覧できる。

(東京事務所出版広報室 村田るり)



『国際医療福祉大学十年史』。



真船健一
(まふね・けんいち)

- ① 附属三田病院外科部長・消化器センターセンター長・教授
- ② 1953年2月16日
- ③ 東京大学医学部卒業、医学博士
- ④ 消化器外科学、外科腫瘍学
- ⑤ 東京大学大学院医学系研究科消化管外科学助教授
- ⑦ 消化器癌に対する新しい診断法と合理的治療法の開発
- ⑧ 日本消化器外科学会評議員、日本胃癌学会評議員・財務委員など



附属三田病院

松井猛彦
(まつい・たけひこ)

- ① 附属三田病院小児科部長・教授
- ② 1946年8月24日
- ③ 信州大学医学部卒業、医学博士
- ④ 小児臨床アレルギー学
- ⑤ 東京都立荏原病院小児科部長
- ⑦ 小児気管支喘息病態解明、喘息死予防
- ⑧ 日本小児アレルギー学会理事、東京小児科医学会理事



附属三田病院

新規着任 教員紹介

二〇〇五年度最終回

- ①所属・職名 ②生年月日 ③最終学歴
- ④専門分野 ⑤前職 ⑥授業担当科目
- ⑦今後の研究課題 ⑧学会役職・その他

太田恵一朗
(おた・けいいちろう)

- ① 附属三田病院外科・消化器センター・教授
- ② 1954年2月25日
- ③ 鹿児島大学医学部卒業、医学博士
- ④ 消化器外科、腫瘍外科、癌化学療法、漢方治療、代替療法
- ⑤ 筑波大学大学院臨床医学系消化器外科講師
- ⑦ 標準治療確立を目的とする、消化管癌の外科治療を含む集学的治療に関する多施設共同臨床研究（臨床試験）の推進。
- ⑧ 日本消化器外科学会評議員、日本胃癌学会評議員



附属三田病院

荒川 孝
(あらかわ・たかし)

- ① 附属三田病院尿路結石破碎治療センター長・教授
- ② 1953年9月26日
- ③ 北里大学医学部卒業、医学博士
- ④ 尿路結石の破碎治療、再発予防
- ⑤ 北里大学医学部泌尿器科助教授
- ⑦ より低侵襲な尿路結石破碎治療法の確立
- ⑧ 日本Endourology&ESWL学会監事



附属三田病院

上田 茂
(うえだ・しげる)

- ① 国際医療福祉総合研究所・教授
- ② 1949年7月18日
- ③ 徳島大学医学部卒業
- ④ 精神保健福祉、公衆衛生
- ⑤ 国立精神・神経センター精神保健研究所所長
- ⑦ 精神障害に関する普及啓発
- ⑧ こころの健康科学研究事業戦略研究課題・運営委員会委員長、若者自立塾創出推進事業評価委員会委員



国際医療福祉総合研究所

提坂敏昭
(さげさか・としあき)

- ① 附属熱海病院産婦人科部長・教授
- ② 1951年8月20日
- ③ 順天堂大学大学院、医学博士
- ④ 周産期医学
- ⑤ 国際医療福祉大学附属三田病院教授・産婦人科
- ⑦ 産婦人科領域におけるレオロジー的研究、特に血液凝固について。妊娠糖尿病
- ⑧ 日本思春期学会理事、Friend of Boston Biomedical Research Institute



附属熱海病院

楽得康之
(らくえ・やすゆき)

- ① 附属三田病院（2005年度）・国際医療福祉病院（2006年度より）予防医学センター・教授
- ② 1957年12月6日
- ③ 東京女子医科大学大学院、米国Tulane大学熱帯医学公衆衛生大学院
- ④ 内科（感染症）、熱帯医学、公衆衛生学
- ⑤ 米国Tulane大学医療センター熱帯医学公衆衛生大学院臨床教授
- ⑥ 公衆衛生、微生物学
- ⑦ Mosquito-Borne Diseasesの疫学、診断、治療
- ⑧ 日本Risk Management学会常務理事、米国熱帯医学学会評議員



附属三田病院

木村政之
(きむら・まさゆき)

- ① 国際医療福祉総合研究所・教授
- ② 1947年4月18日
- ③ 東京大学文学部西洋史学科卒業
- ④ 社会保障政策、社会保障法
- ⑤ 元厚生労働省総括審議官、国民生活金融庫理事
- ⑥ 医療福祉関連法律論、医療関連法規
- ⑦ 社会保障国際比較論、国際医療協力政策論、病院施設管理論
- ⑧ 旧厚生省において年金、医療、福祉の政策立案、実務に携わる



国際医療福祉総合研究所

林 雅敏
(はやし・まさとし)

- ① 附属熱海病院産婦人科・教授
- ② 1948年5月27日
- ③ 東京医科歯科大学医学部卒業、医学博士
- ④ 周産期医学（妊娠高血圧症候群、習慣流産）、婦人科悪性腫瘍
- ⑤ 獨協医科大学越谷病院産科婦人科助教授
- ⑦ 妊娠高血圧症候群、習慣流産、婦人科癌の病因の解明のために血液、羊水、胎盤でのサイトカイン、血液凝固物質などの測定。今後は分子生物学的なアプローチ。
- ⑧ 日本妊娠高血圧学会（幹事、評議員）、日本母性衛生学会（幹事、評議員）



附属熱海病院

服部一紀
(はっとり・かずのり)

- ① 附属三田病院泌尿器科部長・教授
- ② 1961年6月23日
- ③ 筑波大学医学専門学群卒業、医学博士
- ④ 泌尿器腫瘍、腹腔鏡手術、副腎外科
- ⑤ 筑波大学大学院人間科学総合研究科講師
- ⑦ 癌の集学的治療、再生医療
- ⑧ 日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器科学会・日本E学会・日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医



附属三田病院

松岡勇二郎
(まつおか・ゆうじろう)

- ① 国際医療福祉病院予防医学センター長・教授
- ② 1957年12月22日
- ③ 宮崎医科大学卒業、東京大学大学院卒業、医学博士
- ④ 放射線医学
- ⑤ 東芝病院画像診断部・放射線科医長
- ⑦ CT, MRI等の画像診断、画像の運営管理



国際医療福祉病院



新規着任教員紹介

<p>【客員教授】</p> <p>大学 渡辺俊介 保健学部・視機能療法学科 向野和雄 薬学部・薬学科 武田弘志 大学院 澤井 仁 島内 節</p>	<p>【助教】</p> <p>保健学部・看護学科 曾我部美恵子 医療福祉学部・医療経営管理学科 関口 潔 薬学部・薬学科 吉武 尚 白石昌彦 リハビリテーション学部・理学療法学科 藤城直二 奈良貴史 リハビリテーション学部・作業療法学科 柴田 滋 後藤純信 石井久敬</p>	<p>大学院 野見山真理 高梨吉裕 小林 泉 清川 浩 藤井本晴 中島年人 佐藤敦久 由井克昌</p>	<p>臨床医学研究センター・国際医療福祉病院 恩田浩一 宮田幸雄 高山 剛 奥澤 健</p>	<p>臨床医学研究センター・山王病院</p>
---	---	---	--	------------------------

告知版

紀要第一〇巻三号発行のお知らせ



紀要第一〇巻三号が発行されました。今回の講座は次の二件を掲載しています。

■「研究と倫理―倫理審査の経験から―」：丹羽章先生

■「自校教育のケース紹介」：福永肇先生

丹羽先生の講座は、倫理審査を申請する学生だけでなく、指導教員としても学生の指導にあたって参考にすべき内容と思います。また、福永先生の講座は、本学のことをあまり知らない学生に本学を知ってもらい、本学で学んでいることの意味を見つけれられるよう、指導する際にご活用いただければと考えています。

原著論文二件、技術報告一件、調査報告一件および基礎医学研究施設研究報告、学内研究費研究報告が掲載されています。今後も研究成果発表の場としては勿論、院生及び教職員の啓蒙の場としても紀要をご活用くださいますようお願いいたします。次号は七月発行の予定です。(放射線・情報科学科長、紀要委員長 佐々木博)

二〇〇六年度前期
乃木坂スクール開講

本学大学院「乃木坂スクール」は、夜間に学べる医療福祉関係者のための生涯学習コースです。二〇〇六年度前期(四月～七月)は左記のとおり開講します。受講ご希望の方はHPをご参照ください。
<http://www.iuhw.ac.jp/daigakun/hogizaka>
(大学院事務局 大澤倫子)

No.	講座名	コーディネーター	曜日	時間
1	今後の病院戦略を考える	高橋泰教授	月	18:30~20:30
2	医療情報システム最近の話題	開原成允大学院院長	火	18:30~20:30
3	介護予防・認知症を治すケアのための講座	竹内孝仁教授	水	18:30~21:00
4	専門家に学ぶ臨床試験の知識と実際	田中俊一教授	水	18:30~20:00
5	病院のIT化と経営戦略への応用―医療機関CIOの養成	開原成允大学院院長・外山比南子教授	水	18:30~20:30
6	社会人のための精神療法セミナー 基礎編	和田秀樹教授・岡野憲一郎教授	木	18:30~20:30
7	治験モニター(CRA)業務の実際と留意事項①	野口隆志教授	金	18:30~20:00
8	医療ジャーナリズムにとって患者本位とは	水巻中正教授	金	18:30~21:10
9	診療情報管理講座(初級/中級A)	鳥羽克子教授	土	13:00~17:50
10	「How to」ソーシャルワーク	相原和子教授	第2,4月	18:00~20:00
11	熟成のための対人援助技術		第2土	18:00~20:00
12	スーパーヴィジョン実践力養成コース		第3土	18:00~20:00
13	英語で学ぶソーシャルワーク		第1,3金	18:00~20:00

※12・13は定員に達したため、お申込受付を終了しました。

二〇〇六年度ドキュメンタリー
映画上映館のご案内

映画監督、本学客員教授の諏訪淳先生プロデュース「二〇〇六年度ドキュメンタリー映画上映館」のプログラムをご紹介します。恒例となった上映館に今年度も多くの皆様のご来場をお待ちしています。入場無料、日時は予定です。
※上映時間 一八・一〇・一九・三〇
(本校総務課)

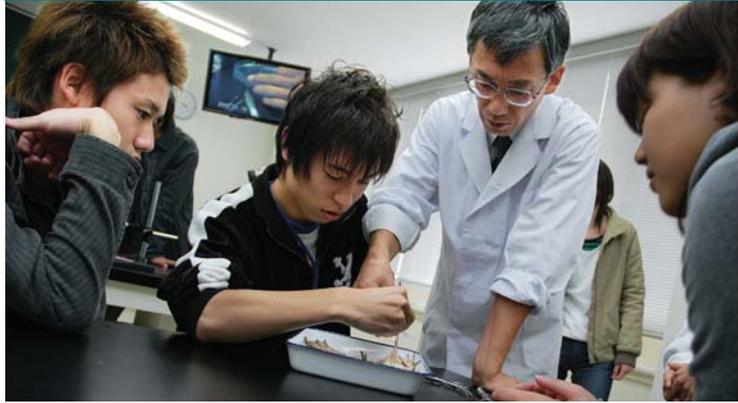
ドキュメンタリー映画上映館

- 第一回 四月二十六日(水)
テーマ：「伝統のわざ」
作品『新歌舞伎』(監督：羽田澄子)、『能入門「隅田川」をみる』(監督：時枝俊江)
- 第二回 五月三十一日(水)
テーマ：「動物の不思議」
作品『りんご畑のハチ作戦』(監督：諏訪淳)、『もんしろちよ』(監督：羽田澄子)
- 第三回 六月二十八日(水)
テーマ：「青少年問題を考える」
作品『不良少年』(監督：羽仁進)
- 第四回 一〇月二十五日(水)
テーマ：「生きがいとは」
作品『こころ』(監督：瀬藤祝)、『希望』(監督：瀬藤祝)
- 第五回 一一月二十九日(水)
テーマ：「伝承の心」
作品『日本刀・宮入行平のわざ』(監督：山内登喜夫)、『越後上布』(監督：時枝俊江)
- 第六回 一二月二〇日(水)
テーマ：「部落差別と人間関係」
作品『菜の花』(監督：瀬木直貴)



真剣に取り組んだ 一期生

藤城助教(白衣姿)による生理学実習の授業。



新たな学生を迎える時期となりましたが、この一年間当学部の一期生は先輩のアドバイスがない中、講義、試験、実習、レポート等に真剣に取り組みました。

初めて見るウシガエル

私が担当する生理学や生理学実習は専門基礎として位置づけられており、専門で学ぶ内容の土台となるものですが、近年の生命科学の進歩に伴いその内容が急速に深まっている分野です。そのため、生理学を学ぶための基礎知識もその広がりは大きく、生物学のみならず物理学や化学の知識を必要とするところもあり、

理学療法学科助教 藤城直二

これらを学ぶことのなかった学生は大いにとまどったのではないかと思います。そんな中で私の授業に関してはしっかりと学習が行われました。

通常、大学で開講される生理学は複数の教員によって行われることが多く、そのためややもすると学習内容の関連性がとりにくかったり、内容の過不足が生じがちですが、その点から言えば当学部の環境は学習しやすいのではないかと思います。一方で、責任の重さを強く感じています。生理学は難しいとよく言われますが、多くの学生が自主的な勉強会を開いたり、質問に私の部屋を訪れたりして、大学らしい雰囲気の中で学び、質問内容にも知識の深化が見て取れました。

生理学実習は循環、筋、腎、体液に関わる内容を行いました。動物を使う項目と学生自らが被検者になる項目から成っています。その内容は医学部や歯学部で行われるのと同じレベルであり、充実した内容です。

ウシガエルからの標本の採取では、ほとんどの学生にとってウシガエルを見ることさえ初めての経験だったようで、その大きさに驚き(恐怖?)の声が上がっていました。果敢に標本作製を行っていました。また腎機能に関する項目では三分毎の採尿が必要となり、少々つらい思いをしたかもしれませんが、頑張ってくれたおかげできちんとした実習となりました。

学生と教員のバリアフリーな関係

実習した項目については、単にやりっ放しとならないように、実習結果の発表

をしてもらいました。PCをうまく使った発表が多く、発表までの短い時間に動画まで用意する班もあり、結果に対する考察には自ら考えた形跡がうかがえました。また教員からの厳しい指摘もあり、内容の濃い発表会となりました。

大学では様々なことを学びますが、ともすると教科書の文字列を単に暗記することだけで済ませようとする姿も時に見受けられます。しかしこれでは知識を使うことは出来ません。学んだ知識を再構築して体系化することで、単に文字列と

見えていた言葉が生きた真の知識へとつながっていきませんが、そこには能動的な学習が必要です。

当学部では、講義室と教員の部屋の距離が近いことがその様な学習の助けになっています。学生と教員の間にはバリアフリーな良い関係が構築されつつあると感じています。推薦入試では意欲あふれる学生の応募があり、一般入試でも入学を希望する真摯な態度が漂っていました。この春の新入生は目をどのよう輝かせるのでしょうか。

この一年のサークル活動を振り返って

リハビリテーション学部が開設されて一年、合わせて九つの体育系・文化系サークル学生団体が設立されました。昨年五月のI・V・C設立を皮切りに、軟式野球、テニス、ESS、解剖学勉強会などです。

I・V・Cは、地域に根ざした医療福祉ボランティア活動を近隣の医療福祉施設を中心にを行っています。当グループ内医療福祉施設でのボランティア活動にも積極的に、昨年七月の夏祭りや十月の第一回大学祭月華祭では、来場されたお年寄りのご案内などに十分な活躍を見せてくれました。

軟式野球サークルは市内リーグで優勝と準優勝を果たし、県内のリハビリ系養成校及び病院が出場した大会でも二位入賞と堂々たる成績を残しました。今後は、九州学生軟式野球連盟へ加入し、本格的に競技スポーツとしての活動を行っていく予定です。

各サークルはそれぞれの目的・目標を掲げて積極的に活動していますが、サークル

事務部 江頭真文



をとりまく環境は決して恵まれていないとは言えませんが、学生数が一〇〇名ほどであるため、サークルの掛け持ちをしている学生が多く、運営費は各員の会費が中心です。しかし、学生諸君はそのような逆境をもとめせず元氣いっぱい活動しています。大学祭のテーマ「伝統始動」という言葉のとおり、大学の歴史、サークルの歴史は自分たちの手で築き上げていかねばならないという強い使命感を各人が持っています。この一年で培った実績、経験を生かし、新年度はさらなる飛躍を上げてほしいものです。

施設インフォメーション

▼ 国際医療福祉大学附属三田病院 ☎03-3451-8121 <http://mita.iuhw.ac.jp>

施設インフォメーション
News: Affiliated Facilities
附属病院
国際医療福祉大学附属三田病院

学術委員会主催研修会開催

三田病院大会議室にて、グループ内職員を対象に研修会が開催されました。第六回研修会（昨年十月二十八日開催）は、『食べるための口腔機能改善をめざして』をテーマに、三田病院歯科口腔外科副部長 藤原優美先生による基調講演に続き、藤原優美看護師が発表しました。他部署にも関係する身近な演題に、看護師からも活発に質問があり、病棟、外来、栄養室など様々な視点から意見交換がされました。

第七回研修会（昨年十一月三〇日開催）は、三田病院乳腺センター長で、本学教授の吉本賢隆先生が『乳がん治療の現状』について講演しました。日本では依然増加し続けている乳がんの現状及び急速に進歩している治療方法とその実情についてわかりやすく説明がなされ、職員の乳がんへの理解が深まりました。また、本年二月三日に第八回研修会が開催され、『脳ドックでわかること』をテーマに、日本人の死因の約六分の一を占める脳血管障害につき、三田病院脳神経外科部長で本学教授の岩崎康夫先生が講演しました。画像を用いて様々な脳血管障害についてわかりやすい説明がなされ、また、早期発見や予防のために受診者が

増えている脳ドックで分かること、分からないことを正しく理解できるよう話がありました。他科の医師からも熱心に質問があり、活発な意見交換がなされました。今後もグループ内職員と、またテーマによっては地元医師会の先生方を交えて、学術的な研修会として回を重ねていきたいと思えます。

ふれあいコンサート開催

昨年十一月二十五日、三田病院一階ロビーにて、三田病院初の院内コンサートが開催されました。三田病院の患者様にご紹介いただいた、東京藝術大学修士課程修了の琴演奏家 Nobuko さんの「さくら幻想曲」や童謡メロディーなど、身近な演目からなる演奏会でした。会場には、入院患者様を中心に外来患者様も集まり、美しい琴の音色に心休まる一時となりました。

（総務課 杉田由紀）



琴演奏家 Nobuko さんと演奏に聴き入る患者様。

▼ 国際医療福祉大学附属熱海病院 ☎0557-81-9171 <http://atami.iuhw.ac.jp>

附属病院

国際医療福祉大学附属熱海病院

母親学級出産準備クラス開催

一月二十八日（土）、熱海病院地下一階の大会議室において、出産を控えた患者様を対象に出産準備クラスが開催されました。今回は二月・三月にご出産予定の患者様九名が参加し、正しい呼吸法などの指導が行われました。

内容

- * 分娩の経過と過ごし方
- * 呼吸法と補助動作
- * 産後の経過、入院中のスケジュール
- * 入院の準備
- * 赤ちゃんとの生活

第九回公開講座開催

「アレルギー予防に適した生活環境の整備」をテーマに、二月十九日（日）、熱海市観光会館において第九回目の公開講座が開催されました。演題・講師は左記の通り。

- 一、花粉症―国民病の治療と予防―
神崎仁教授（前病院院長・耳鼻咽喉科）
- 二、薬剤アレルギーとは？
佐々木隆 薬剤室長
- 三、喘息について
清川浩助教授（呼吸器内科）
- 四、知っておきたい環境整備のポイント
鈴木美保子 看護部
- 五、老人医療費改正について
高野一広 医事課・課長代理

熱海病院では、今後も公開講座の開催

にあたり、参加者の方々にとって有意義なものとなるよう努力してまいります。ご案内は随時、Webサイトや誌面上に掲載します。

第十六回DMポートの集い
講習会開催

二月三日（木）、熱海病院の大会議室において、糖尿病患者様の集い「熱海DMポート」の講習会が開催されました。演題・講師は左記の通り。

- 【血液・尿検査の見方】
渡部まき（臨床検査部）
- 【知って、冬の自己管理について】
山中順子（看護部）

当日は血液検査・尿検査の結果が出た際の各データの見方を、臨床検査部が分かりやすく解説しました。また看護部は厳しい冬の気候に負けない体力づくりの方法を、参加者と一緒に体を動かしながら説明しました。熱海DMポートのお問合せは、附属熱海病院総務課の原まで。

（総務課 篠原拓真）



DMポートの集い。

臨床医学研修センター(栃木地区)

国際医療福祉病院

消防訓練実施

国際医療福祉病院には防災委員会があり、毎月、防災について様々な検討をしています。

二月二三日、病院内における消防訓練が行われました。消防訓練は、火災時に患者様を安全に避難誘導できるように、年二回定期的に行っています。各部署の参加者総勢四〇名程で、通報放送訓練、実際に救助袋を使った脱出訓練、患者様の避難誘導訓練、消火訓練を行いました。

火災発生時には、如何に早く消防署へ連絡し、また院内にいる患者様に火災発生連絡が出来るかが重要となります。通報放送訓練では、実際に館内放送を行い、迅速に対応する訓練を行いました。

避難誘導訓練では、四階東棟病棟からの出火を想定し、訓練を実施しました。出火発生場所によっては、出火地点近くの非常階段は煙の通り道となるため、危険なケースがあります。脱出ルートを適切に選び、避難する訓練を行いました。また、大田原消防署のご協力により、はしご車を使った六階からの脱出訓練が実施されました。消火訓練では、緊急時にあわてて手順を忘れてしまわないように消火器の操作手順を確認し、実際に火を消す訓練を行いました。

病気やけがと同様に、火災や震災はいつ発生するかわかりません。万が一起きてしまったときに、如何に身体の不自由な患者様を安全に避難させられるか。こ

れからも真剣に訓練し、検討していきたいと思います。

防災委員会では今回のような訓練の他、「災害を未然に防ぐ」という観点から、職員による院内防災巡視を毎月実施し、防災上問題のある点を確認しています。最近の防災上の問題として、駐車場や植え込みへのタバコの投げ捨てが非常に多いことが挙げられます。空気が乾燥している現在、いつ何時火災に発展してもおかしくありません。病院は「施設内全面禁煙」となっていますので、患者様の命を守るためにも、吸い殻のポイ捨て禁止のご協力を呼びかけています。

(総務課 小林庸良)



患者様を安全に避難誘導する訓練を実施。

臨床医学研修センター(東京地区)

山王病院

患者様に個人対応でお料理を提供

山王病院では、伝統的に、病院食とは思えないようなお料理を、有名処で修行を重ねた板前が、栄養士の献立をもとに、細やかな細工を施して、一〇〇パーセント個人対応で患者様に提供しています。栄養士は常に、患者様一人一人のお部屋を訪問し、その嗜好を考慮したお食事やお召し上がりいただけるお食事をご用意しています。

また、お料理に関しては、食材ひとつをとっても、ご家庭ではなかなかお目に



三月三日の行事食「ひなまつり」。

かれない物も多く、ちよつとした懐石料理を意識したものや、フルコースのような料理をお出しすることもあります。そのため、ホテルの和・洋・中のシェフから秘伝の技を御伝授いただき、常に新しいお料理を取り入れるよう日々努力しています。

お料理を目で見ても楽しめるように、盛り付けや食器にも気を使っています。ご家庭でのお食事のように、普段どおりの幸せな気持ちで召し上がっていただけるよう、宮内庁御用達の陶器の食器を使用したり、季節感を味わえるように、毎月二・三回程度、季節の食材をふんだんに取り入れたり、「お正月」「ひなまつり」「クリスマス」などの「行事食」の提供を行なっています。

その他にも、産科病棟の患者様対象に、おやつ時にパティシエ手作りのケーキのワゴンサービスを行ったり、焼ききたてのトーストを召し上がっていただけるようにトースターの貸し出しを行ったり、サービス面には特に力を入れています。

また新たに、有機野菜など食材にこだわったメニューや、薬膳料理の提供等も検討しています。

「患者様の満足度 日本一の病院」を目指して、これからも良き伝統を守りつつ、絶えず患者様のニーズに対応して、最大限のサービスを提供できるよう努力してまいります。

(山王病院 栄養室)

施設インフォメーション

柳川リハビリテーション病院 ☎0944-72-0001 <http://www.kouhoukai.org/yanagawa>

臨床医学研究センター(九州地区)

医療法人社団高邦会

柳川リハビリテーション病院

全国から来院するリハビリ専門病院

柳川リハビリテーション病院は、福岡県柳川の地に一九九〇年四月、リハビリテーション専門病院として開設しました。福岡県南部地区はもとより、近年は関東・東北方面に及ぶ全国各地から患者様に来院していただいております。

柳川市は詩聖・北原白秋の出身地、水郷の町として全国的に知られています。当院は市内を流れる掘割の一角に位置し、自然に恵まれ充実したりハビリテーション環境を誇ります。一・二・三〇mもの広さの訓練室には全面南側に大きな窓があり、明るい空間を確保しています。屋外訓練用に階段等を配置した庭園もあります。

世界トップの実績を誇るキアリ手術

病床数は二四〇床で、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、障害者病棟(各六〇床)に分けられます。当院には、内科、整形外科、神経内科、リハビリテーション科、放射線科、耳鼻咽喉科、眼科(ロービジョン)、歯科口腔外科(障害者・小児歯科)があります。整形外科は、進行期・末期股関節症に対するキアリ手術、術後リハビリテーション体制を整えています。井上明生院長の成人変形性股関節症に対するキアリ骨盤骨切術は世界トップの実績を誇ります。神経内科は、神経難病センターを二〇〇三年十月に開設しました。四名の専門医が



柳川リハビリテーション病院

治療と診療にあたり、ボバーステクニクを用いて早期の生活復帰に寄与しています。眼科(ロービジョン)は二〇〇〇年一月に開設し、全国でも数少ない視力障害、視野障害を持つ患者様に、日常生活支援を目的に歩行訓練等を行っています。

特徴あるリハビリテーション

- 一 キアリ骨盤骨切術後リハビリ
術後から退院まで、理学療法士が患者様の到達点を確認しながら施行します。
- 二 急性期・回復期・維持期リハビリ
各期に様々なリハビリを工夫し、中枢性麻痺性障害には、ボバース法を基本にPT・OT・STがチームを組みます。
- 三 嚥下障害の言語聴覚療法
嚥下障害に積極的に取り組み、患者様の経口摂取再獲得に成果をあげています。
- 四 通所リハビリテーション
専属スタッフを三名常駐させ、リハビリ中心の通所サービスを展開しています。今後も、介護予防事業への参加等、機能充実への努力を続けてまいります。
(柳川リハビリテーション病院 松藤止幸)

こんな時どうする？

子どもが急に病気になった時、どのように対応したらよいでしょうか？
そのような時の対応を、本学の臨床医学研究センター・山王病院小児科上席部長、附属三田病院小児科非常勤医師の保科清先生がガイドブックにまとめています。『こんな時どうする？お子さんの急病対応ガイドブック』では、子どもの症状を「発熱」「腹痛」「けいれん」など9つに分け、それぞれの対応のしかたを可愛らしいイラストでわかりやすく説明しています。お母さんはもちろん、ボランティアの際や子どものいる方へのプレゼントなどにぜひご活用ください。



◎全16ページ、定価200円。
◎附属三田・熱海病院で好評発売中！
◎他の本学関連病院でも発売予定。
◎下記でもお求めになれます。

医療福祉総合研究所(お客様係)
TEL:0120-870-774
FAX:03-5772-5549

発熱 子どもが熱を出した！

子どもは夕方から夜にかけて発熱することが多いものです。そこで、ご両親があわてても、決してよいことはありません。もし、38.5℃程度までで、機嫌よく遊んでいるか、スヤスヤ眠っているようなときは、あわてずに様子を見ていてください。



39℃とか40℃になると、フラフラするか、機嫌が悪くなります。このような時は、診察を受けましょう。



医療福祉チャンネル774



テレビを見るなら、「医療福祉チャンネル774」

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

■ おすすめの番組

国際医療福祉大学アワー

入学式、運動会、風花祭（大学祭）、卒業式などの行事のほか、先生方のインタビューやサークルのレポート、大学紹介などを織り交ぜたIUHWに関する情報満載の番組です。学生の方々はもちろん、ご父兄の方々にも是非ご視聴賜りますようお願い申し上げます。



平成17年度国際医療福祉大学卒業式

黒岩祐治のメディカルレポート

フジテレビ「報道2001」のキャスター黒岩祐治氏（国際医療福祉大学客員教授）がお届けする現場直送のメディカルレポート。番組では、筋肉や細胞が骨化する難病FOPや末期がん患者、統合医療、ディスレクシア（読字障害）などを取り上げています。



黒岩祐治氏、森まどかアナウンサー（医療福祉チャンネル774）

竹内孝仁道場 大丈夫なのか介護予防？

講演「健康で活動的な毎日を過ごすには」

「健康であることは社会的責任なのだ」と説き、認知症の予防には余暇活動や趣味活動を3つ以上行うと効果的で、認知症の発生率が下がると指摘しています。他に、寝たきりにならないコツや転倒骨折、閉じこもりの予防法などを分かりやすく説明します。



竹内孝仁氏（国際医療福祉大学大学院教授）

4月から始まる新番組

■ 患者が変わる

「医療の主役は患者本人である」という意識の高まりから、医療現場は大きく変わろうとしています。患者側が望む医療とは？患者やその家族にできることは？同じ疾病や障害をもつ当事者たちの活動にスポットを当て、よりよい医療の実現に向けた患者の声をお伝えします。

■ きらり☆介護自慢

「する人もされる人も幸せな介護」を求めて、毎回、全国各地の施設や高齢者ケア、介護の現場を訪問、さまざまな介護のかたちと魅力を紹介する番組です。氾濫する情報の中で、今、本当に欲しい介護とは何かを探るとともに、「目で見える施設情報」としても大変有効です。

● 医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ！
 ○視聴料・・・月額2,100円（このほかに、スカパーフェクTV!加入料・・・2,940円（初回のみ）・スカパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります。）
 法人契約・・・5,250円
 ○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせ下さい。

● 視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774（株）医療福祉総合研究所 お客さま係 Eメール info@iryoufukushi.com ホームページ www.iryoufukushi.com



国際医療福祉大学・高邦会（IHW）グループ

栃木地区

【学校法人国際医療福祉大学】

国際医療福祉大学本校（栃木県大田原市）
 国際医療福祉大学大学院（栃木県大田原市）
 国際医療福祉大学クリニック（栃木県大田原市）

【医療法人社団平成記念会】

国際医療福祉病院（栃木県那須塩原市）
 介護老人保健施設 マロニエ苑（栃木県那須塩原市）
 にしやすの総合在宅ケアセンター（栃木県那須塩原市）

【社会福祉法人邦友会】

特別養護老人ホーム 栃の実荘（栃木県那須塩原市）
 国際医療福祉リハビリテーションセンター（栃木県大田原市）
 おおたわら総合在宅ケアセンター（栃木県大田原市）

東京地区

【学校法人国際医療福祉大学】

国際医療福祉大学附属三田病院（東京都港区）

【医療法人財団順和会】

山王病院（東京都港区）

山王メディカルプラザ（東京都港区）
 国際医療福祉大学東京ボイスセンター（東京都港区）
 新宿東クリニック（東京都新宿区）
【財団法人化学療法研究会】
 化学療法研究所附属病院（千葉県市川市）

東海地区

【学校法人国際医療福祉大学】

国際医療福祉大学附属熱海病院（静岡県熱海市）
 国際医療福祉大学小田原キャンパス（神奈川県小田原市）

九州地区

【学校法人高木学園】

福岡国際医療福祉学院（福岡県福岡市）
 大川看護福祉専門学校（福岡県大川市）

【医療法人社団高邦会】

柳川リハビリテーション学院（福岡県柳川市）

高木病院（福岡県大川市）

柳川リハビリテーション病院（福岡県柳川市）
 みずま高邦会病院（福岡県三潨郡）
 福岡中央病院（福岡県福岡市）
 介護老人保健施設 水郷苑（福岡県柳川市）
 ケアサポートハウス大川（福岡県大川市）

【社会福祉法人高邦福祉会】

重症心身障害児（者）施設柳川療育センター（福岡県柳川市）
 軽費老人ホームおおかわケアハウス（福岡県大川市）

【学校法人国際医療福祉大学】

国際医療福祉大学大川キャンパス（福岡県大川市）

関連会社

株式会社 医療福祉総合研究所（東京都港区）
 SKY PerfecTV!「医療福祉チャンネル774」
 株式会社 医療福祉経営審査機構（東京都港区）

